

赤十字 きょうと

〒605-0941 京都市東山区三十三間堂廻り町644
TEL 075-541-9326 FAX 075-541-1361



5月は赤十字運動月間

日本赤十字社は、5月1日から「赤十字運動月間」として全国キャンペーンを実施します。

月間中は、広く赤十字思想の普及と活動紹介等に努めるとともに、活動資金のご協力と「赤十字社員」の拡大をお願いしています。

赤十字の活動を資金で支える
「社員」にご加入をお願いします。

社員とは？ 赤十字社の人道的な活動に賛同し、毎年500円以上の資金協力をしていただく方のことです。日本赤十字社は、皆様から託されたこの資金で運営している団体です。

東北関東大震災救護活動



平成23年3月11日14時46分に発生した「東北関東大震災」は東日本に甚大な被害をもたらしました。

日本赤十字社京都府支部では発災当初から京都第一・第二・舞鶴赤十字病院からなる救護班にこころのケア担当・レスキューチェーン京都等防災ボランティアを加え順次被災地に派遣したほか、毛布など救援物資を被災地に送りました。

また、日本赤十字社は、3月14日から全国一斉に「東北関東大震災義援金」を募集しています。

赤十字運動月間キャンペーン



汐見副支部長（井手町長）を先頭に赤十字啓発物を配布する赤十字ボランティア

日本赤十字社京都府支部では、平成22年5月14日に京都駅前地下街ポルタプラザで、支部・赤十字病院・血液センターと赤十字奉仕団・有功会・青少年赤十字が「ひろげよう赤十字の輪(和)」を開催し、赤十字の理解と協力をお願いしました。



啓発物を配布する河井木津川市地区長（木津川市長）

5月7日にJR木津駅で、通勤通学の乗降客に有功会木津川市地区支会や支部・地区関係者が啓発物を配布しました。

京都市 各区ふれあいまつり



血圧を測定する門川支部顧問（京都市長）

京都市内の各区ふれあいまつりに赤十字コーナーを設け、赤十字奉仕団と支部で啓発物の配布等を行いました。



骨密度の測定コーナー



献血クイズに答える小学生



赤十字啓発物を配布する赤十字奉仕団員



救急車乗車体験コーナーで写真撮影

今年参加した
主な
ふれあいまつり

- 5月 東山区民ふれあいひろば
- 6月 北区民春まつり
- 10月 中京区民ふれあいまつり2010
- 上京区民ふれあいまつり2010
- 11月 下京区ふれあいひろば
- 南区民ふれあいまつり

救急車両（救急車）の整備

京都府支部では、災害時等における医療救護活動を実施するために、平成23年2月に京都第一赤十字病院に救急車を更新整備しました。

今回の車両は、消防機関で使用されている救急車と同じ大きさのもので、車内での医療活動がより効率的に実施できるようになりました。

後部座席配置を通常の横向きから助手席と同じ前向き配置にしたことにより、長距離移動時の救護要員の負担が軽減されることとなり、早速「東北関東大震災」の救護車両として活躍しました。



赤十字講習会

いのちと健康を守る各種講習会を府内各所で開催しました。



救急法



水上安全法



幼児安全法



救急法・水上安全法指導員研修会

講習会の種類と受講者数 (平成22年12月31日現在)

講習区分	資格講習						短期講習		合計	
	基礎講習		救急員等養成講習		救急員等資格継続研修		回数	人数	回数	人数
	回数	人数	回数	人数	回数	人数				
救急法	32	1,295	16	478	3	99	26	765	77	2,637
水上安全法	—	—	3	46	2	7	14	482	19	535
健康生活支援講習	—	—	4	59	1	6	28	772(415)	33	837
幼児安全法	—	—	2	31	2	12	10	395	14	438
合計	32	1,295	25	614	8	124	78	2,414	143	4,447

※この他に、雪上安全法の講習もありますが、京都府支部では実施していません。 ※()内は、災害時高齢者生活支援講習会受講者数の再掲。

赤十字青少年活動

近畿ブロック合同青少年赤十字国際交流事業 (派遣)



シンガポール赤十字社に訪問



マレーシアの青少年赤十字加盟校でのプレゼンテーション



マレーシアの教会見学



マレーシア赤新月社でのおわかれ会

8月16日～22日、ブロック合同で指導者6名、中学・高校生11名をシンガポール、マレーシアに派遣し各国の青少年赤十字メンバーと交流しました。

青少年赤十字トレーニング・センター (リーダー養成研修)



開会式 (ちかいのことば)



セルフによる食事



朝のつどい



ホームルームでの発表

7月31日から8月2日までの2泊3日、宇治市総合野外センター「アクトバル宇治」で平成22年度京都市青少年赤十字トレーニングセンターを実施し、京都府内の65校(小44校、中14校、高7校)から99名(小67名、中18名、高14名)が参加しました。

ふれあいバスケット



11月20日京都市総合教育センターで車いすバスケットボールチーム「京都アップス」と青少年赤十字メンバーが交流しました。

青少年赤十字公開授業



10月29日京都市立西野小学校で「少年兵」をテーマにした授業が実施されました。

災害救護活動



滋賀県で開催されたブロック合同災害救護訓練

京都府支部では第4ブロック（近畿各府県支部）合同災害救護訓練を始め各自治体で9月の防災週間を中心に実施される防災訓練に積極的に参加しました。

また「防災ボランティアの日」にあたる1月17日には京都府警察学校で、赤十字病院の常備救護班や血液センター、支部、赤十字レスキューチェーン京都などによる「京都府支部管内合同訓練」を実施しました。

今年参加した 主な 防災訓練

日本赤十字社第4ブロック合同災害救護訓練（5/22）
京都府総合防災訓練（9/4）
京都市総合防災訓練（9/4）
福知山市地域防災訓練（9/5）
長岡京市防災訓練（9/5）
国民保護共同訓練（10/12）
京都府支部管内合同訓練（1/17）



京都府支部管内合同災害救護訓練、京都府警と合同でクリーフ（悲嘆）ケアを実施



石巻赤十字病院ロビーで被災者を救護する赤十字救護班

東北関東大震災の活動状況

第1次 3/11~16

派遣先宮城県内に京都第一赤十字病院医師2名・看護師2名・事務員2名・京都府支部職員2名 の計8名を派遣

第2次 3/15~19

第1次の交代として京都第二赤十字病院医師1名・看護師3名・心のケア担当2名・事務員2名・京都府支部職員2名・ボランティア3名 の計13名を派遣

その後も順次医療救護班を派遣しました。

※第3次（3/18~）までは宮城県、第4次（3/21~）からは福島県に派遣

NHK 海外たすけあい



華頂女子高校（NHK放送局）



青少年赤十字・RCYメンバーによる街頭募金活動に女子プロ野球チーム京都アストドリームスが協力（河原町三条）

12月1日~25日のNHK海外たすけあい実施期間中に青少年赤十字・RCY（青年赤十字奉仕団）メンバーが募金活動を実施しました。

支部評議員会開催



平成23年2月21日に日本赤十字社京都府支部において「京都府支部評議員会」が開催されました。

会議は小石原副支部長の議事進行により、支部管内施設にかかる平成22年度歳入歳出補正予算案及び平成23年度歳入歳出予算案が審議され、原案のとおり承認されました。

平成23年度の支部の予算概要については次のとおりです。

また、京都第一赤十字病院の増改築工事が平成25年9月完成を目指し、着工されたとの報告が行われました。

■平成23年度 歳入歳出予算の概算

	当初予算額	構成比率
社 資 収 入	299,000	86.2%
委 託 金 収 入	5,648	1.6%
補助金及び交付金収入	2,226	0.6%
繰 入 金 収 入	6,899	2.0%
資 産 収 入	25	0.0%
雑 収 入	6,209	1.8%
前 年 度 繰 越 金	27,000	7.8%
合 計	347,007	100%

	当初予算額	構成比率
災 害 救 護 事 業 費	48,074	13.9%
社 会 活 動 費	60,557	17.4%
国 際 活 動 費	1,570	0.5%
指 定 事 業 地 方 振 興 費	6,000	1.7%
地 区 分 区 交 付 金	48,560	14.0%
社 業 振 興 費	45,762	13.2%
基 盤 整 備 交 付 金・補 助 金 支 出	15,948	4.6%
積 立 金 支 出	8,978	2.6%
総 務 管 理 費	60,845	17.5%
資 産 取 得 及 び 資 産 管 理 費	3,513	1.0%
本 社 送 納 金 支 出	43,200	12.4%
予 備 費	4,000	1.2%
合 計	347,007	100%

赤十字奉仕団の活動



防災訓練での地域奉仕団

■奉仕団数

地域奉仕団	14団
青年奉仕団	3団
特殊奉仕団	3団
計	20団



車いす駅伝の運営ボランティア (RCY)

赤十字奉仕団は、赤十字事業の推進を図るため、社資募集や赤十字思想の普及、災害時の支援、献血の推進、イベント支援などの活動を行っています。

コラム② ピア・エデュケーション (青年赤十字奉仕団 RCY の活動)

HIVと共に生きる人々は、世界で3,340万人に上っています。また、日本では2009年には、1,428件の報告があり、1日に約4人が感染していることとなります。

このような背景から、HIV / AIDSの予防啓発を行うことが非常に重要であり、その活動のひとつに、「ピア・エデュケーション」があります。

「ピア(peer)」は、仲間、同僚、同等の者という意味の言葉で、世代や文化、ライフスタイルなどが同じような特性をもった人を指し、こうした立場の近い者同士による教育手法のことをピア・エデュケーションと言います。

ピア・エデュケーションの特徴は、学校での授業や専門家による指導といった一方向的な教育ではなく、ピアとして対

等な立場で共に学び合うということにあります。

ピア・エデュケーションは、特に思春期・青年期の若者に対する効果的なアプローチのひとつとして、世界的に注目されており、世界各国の赤十字社・赤新月社でも、青少年やHIV感染のリスクが高い人等をターゲットに積極的にHIV・エイズの予防に取り組んでいます。



地域防災セミナー

地域の防災意識を高め赤十字の救護活動を知ってもらう
目的で地域防災セミナーを開催しました。



開催情况

7月 1日	日赤北区地区
7月 8日	日赤精華町分区
7月21日	日赤京田辺市地区
9月15日	日赤長岡京市地区
10月 9日	日赤北区地区紫竹分団
2月17日	日赤伏見区地区
2月26日	日赤与謝野町分区
2月28日	日赤左京区地区
3月29日	日赤長岡京市地区

いさという時のための防災講座



有功会の活動



小児科病棟入院児童激励



有功会チャリティ・ゴルフ

京都府支部有功会は、赤十字の行う人道的な諸事業に賛同し、金色有功賞（50万円以上の寄付者に対する表彰）を日本赤十字社から贈られた方々が赤十字活動を支援していこうと、昭和37年に全国で3番目の有功会として結成されました。

看護師の養成



京都府支部では昭和9年に救護看護師養成所を開設しました。現在は、京都第一・第二赤十字看護専門学校で地域医療の向上と災害救護活動にも従事できる赤十字看護師を養成しています。

ハイチ地震救援活動を終えて

平成22年1月12日ハイチ共和国で起こったマグニチュード(M)7.0の地震では、死者が約23万人、また、総人口の約1/3にあたる300万人が被災したとされています。日本から見て地球の裏側にあるハイチという国の名前をこの地震を通して初めて知った人も多かったのではないのでしょうか。日赤はこの地震災害に対し、1月17日より基礎保健ERUチームを派遣しました。主な活動内容としては、診療所の運営・巡回診療で、活動場所は首都のポルトープランスと首都から40kmほど離れたレオガン市で行われました。

私は、平成22年4月19日から5月24日まで、レオガン市で事務管理要員として医師や看護師からなる7人のチームメンバーと1ヶ月の活動を行ってきました。

ハイチに着くと、テレビでよく目にした、天井・床が重なって潰れるパンケーキクラッシュ、道路には瓦礫の山、そして、家を失った人たちが集まってきてテント生活を行っている避難民キャンプ。そんな景色が目の前に広がっていました。地震の規模の大きさはもちろんのこと、もともとハイチの政情不安定に起因する社会基盤の脆弱さはニュースでも耳にしていたのですが、彼らの生活の安全が更にこの地震で崩壊したようにも見えました。気候は連日40度を超える暑さで、熱中症で倒れるスタッフも何人もでるほどで、毎日水分を2、3リットルとるように心がけていました。活動を通して私が見たハイチ人の国民性は、人に対して敬意を持って対応される方が非常に多く、赤十字の活動に対して感謝の意を表して下さる現地の人々の声は活動の励みとなりました。

レオガンの診療所では、1ヶ月の活動の中で1,798名の患者の診察と、レントゲン撮影を483件行いました。災害後、4ヶ月経った時点では災害に関連した疾患で診療所を訪れた患者は2名のみ、その他は慢性疾患の患者さんでした。私の業務内容は、事務管理要員として、診療所運営に係る全ての事務と要員の生活に係る環境整備でした。日赤の診療所で働いている現地スタッフとの契約に関する業務や、給与の支払い、また、雇用している運転手への指導など、人事、会計など多岐に渡る業務を経験させていただきました。現地スタッフとの共同生活の中で、彼らは自分の置かれている状況を私に訴えます。彼らを通して、スタッフ1人1人、地震で失ったものが違うことに気付きました。ある人は両親を失い、ある人は安定した生活を失い、ある人は尊厳のある生活を生きる為に犠牲にして路上で寝ていました。どんな悲しみや苦勞があっても、それでも生きてゆくために必要な仕事やお金。彼らは共に働く赤十字診療所のスタッフでもあり、被災者でもあります。ひいては、日赤からの受益者でもあるのです。



レオガンの診療所に診察に来た子供を抱く佐野事務管理要員

初めての派遣は右も左も分からず、やるべき仕事をがんばることに必死でした。一ヶ月の活動を終え、今感じていることは、国際救援では、日本での日常業務の経験が基礎となること。国と言語は違っても、毎日の業務の積み重ねが現場で活かされるということを実感しました。また、日本国内の赤十字施設から集まったチームで仕事をする中でチームワークも求められました。1ヶ月という期間の間にいろんなことを決めていくのですから、情報の共有は時差なくチーム内で行う必要があります。自分の伝えたいことはしっかりと伝えた上で、協調性を踏まえたチームメンバーの意見が交換できる環境作りや医師・看護師・事務職など職種を超えた協力体制が大切なことを今回一緒にさせていただいたチームメンバーの皆さんから学びました。これらの学びを病院での業務で活かせるよう努力していきたいと考えています。

(地域医療連携課 主事 佐野 友妃子)



ポルトープランスに設置された国際赤十字・赤新月社連盟のベースキャンプ

ハイチでの連盟の活動は、連盟史上最大のオペレーションとなった。



地震でパンケーキクラッシュ状態に崩壊した建物

レオガン市では建物の8割が崩壊した。



ポルトープランスの日赤の診療所にて小規模手術を行なう日赤の医師

日赤の診療所では、ハイチ人と日本人の医師が共に診療にあたった。

コラム⑧ 日本赤十字社のハイチ大地震救援状況

日本赤十字社は、2010年1月12日の大地震後、6班66名の医療チームを派遣し、仮設診療所、巡回診療などにて合計2万2,987名の被災者に医療を提供しました。その後、「治療より予防」をするために、給水衛生・保健分野での復興支援を開始。避難民キャンプや村を回り、衛生知識の普及、井戸やトイレの設置に向けた支援を行っています。地元ハイチ人ボランティアを育成し、ハイチ人自らの生活環境の改善を

狙っています。

コレラ対応では、治療センターを立ち上げ患者を受け入れると同時に、現地の医師・看護師へコレラに関する知識、正しい治療方法を教育するなど、ハイチ人のコレラへの対応能力強化も狙った活動を行っています。これらの救援・復興支援活動には、国民の皆さまから寄せられた約21億900万円の救援金が役立てられています。

ニュージーランド地震にこころのケアチームを派遣

日本赤十字社は平成23年2月22日に発生したニュージーランド地震の日本人被災者やそのご家族に対し「こころのケア」を行うために医師・看護師等によるチームとして、京都第一赤十字病院看護師1名を含み2月27日～3月20日に派遣しました。



3月3日のひな祭りに相談者の心が少しでも和むように赤十字カフェに現地の子どもたちを保育するコミュニティ会でいただいた塗り絵を飾る「こころのケア」チーム



倒壊したビルで救護活動をするニュージーランド赤十字社の救護ボランティア

■ 毛布



■ コラム④ 被災者にお届けする救援品

被災状況によりお届けする内容は異なります。

■ 安眠セット

品名	品名
折畳マット	アイマスク
空気枕	耳栓
スリッパ	収納袋
靴下	



■ 緊急セット

品名	品名
タオル	ウェットティッシュ
ポケットティッシュ	軍手
ゴム手袋	ビニール袋
コップ	スプーンフォークセット
物干しロープ	洗濯バサミ
救急絆創膏	弾性包帯
ガーゼ	マスク
歯ブラシ	毛抜
風呂敷	携帯ラジオ
懐中電灯	天チャックポーチ
鉛筆	メモ用紙
ブックレット	バッグ(外袋)



■ 府内赤十字施設のご案内

日本赤十字社 京都府支部 ☎(075)541-9326
京都市東山区三十三間堂廻り町644 FAX(075)541-1361

献血ルーム四条 ☎(075)365-0388
京都市下京区四条寺町下ル 岡本鏡店3F FAX(075)365-0277

京都第一赤十字病院 ☎(075)561-1121
京都市東山区本町15-749 FAX(075)561-6308

献血ルーム京都駅前 ☎(075)361-9333
京都市下京区烏丸通七条下ル 京阪京都ビル6F FAX(075)361-9320

京都第二赤十字病院 ☎(075)231-5171
京都市上京区釜座通丸太町上る FAX(075)256-3451

献血ルーム伏見大手筋 ☎(075)603-1350
京都市伏見区東大手町756 桃山SKビル2F FAX(075)603-1351

舞鶴赤十字病院 ☎(0773)75-4175
舞鶴市字倉谷427 FAX(0773)76-3724

日本赤十字社ホームページ
<http://www.redcross-kyoto.jp/>



【QRコード】からアクセス

京都府赤十字血液センター ☎(075)531-0111
京都市東山区三十三間堂廻り町644 FAX(075)541-9485

日本赤十字社血液管理センター ☎(0773)27-9501
福知山市長田野町1-31-1 FAX(0773)27-9601

京都府福知山赤十字血液センター ☎(0773)27-6630
福知山市長田野町1-31-1 FAX(0773)27-6723